

生活排水対策の推進として、市内を流れる河川の水質調査を毎年1回

水質調査からわかること



市では「快適で健やかに暮らせる生活文化都市」という環境像を掲げています。この環境像を実現するための施策の一つとして、水質汚濁の防止に取り組んでおり、「水質汚濁物質の排出抑制対策」と「生活排水対策」の2つを推進しています。

きれいな



を

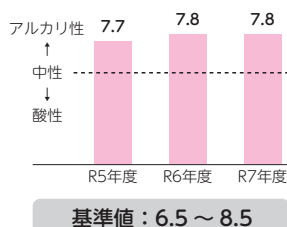
次世代に

→問合せ 市民環境課 ☎274-8543

水素イオン濃度(pH)

水の酸性・アルカリ性を示す指標です。工場排水などに起因するさまざまな塩類から影響を受けます。水稻の生育には中性(7.0)が適しています。

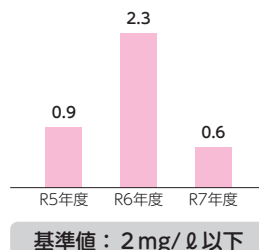
特殊な工場排水などの影響で著しく変動することもあります。今回の調査では、⑮東花輪川下流、⑳渋川下流を除く全ての調査地点で基準範囲内でした。



生物化学的酸素要求量(BOD)

水中に含まれる有機性物質が、微生物によって生物科学的に分解浄化されるときに消費される酸素の量です。この数値が高いほど酸素欠乏状態になりやすい水だといえます。

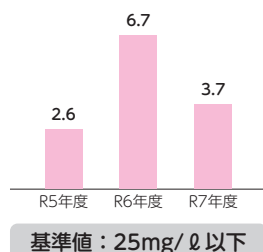
⑳渋川下流、㉑豊富2用水路で、環境基準(A類型)を上回りました。その他の地点は基準値を下回り、良好な結果でした。



浮遊物質(SS)

濁りの原因となる、水中に浮遊する粒径2mm以下の粒子(不溶性物質)の量です。この数値が高いと透明性が低下しているといえます。

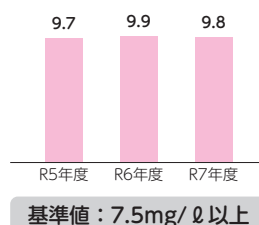
全ての地点で環境基準を下回りました。透明度が保たれており、良好な環境が維持されています。



溶存酸素量(DO)

水中に溶け込んでいる酸素量のことです。微生物や魚介類、河川や湖沼での自浄作用に不可欠なもので、数値が低いほど水質汚濁が進んでいるといえます。

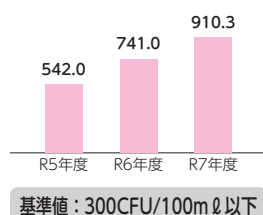
今回の調査では、⑥臼井排水路上流で環境基準(A類型)を下回りましたが、環境基準(B類型)は上回っていました。その他の地点では、良好な環境が保たれています。



大腸菌数

大腸菌は通常、人畜の腸管内に生息しているもので、大腸菌の検出数の数値が高いほど水が汚れていることを表し、水環境をもっとも端的に左右する指標です。

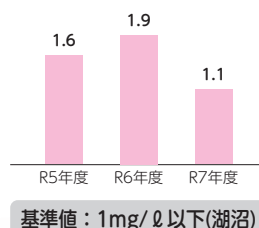
調査した全25地点中13地点で、大腸菌数が環境基準(A類型)を超過していました。人を含む動物糞尿による汚濁が心配されます。この状況には大きな変化がありませんでした。



全窒素(T-N)

窒素は、自然界では植物などに含まれるほか、生活排水や畜産排水などにも含まれています。稲の生育期に大量の窒素が水田に入ると米質が変化する可能性があります。全窒素は、水中のさまざまな形態の窒素を全体として測定したものです。

基準に適合しており、例年と比較しても大きな変化は確認できません。継続的に安定した状態であるといえます。



※各項目の棒グラフは全河川の平均値(小数点第2位以下切り捨て)を示しています。
各測定地点の数値は4ページに掲載しています。

行い、経年変化を観測しています。
測定地点は田富地区13地点、玉穂地区9地点、豊富地区4地点の計26地点です。

▼令和7年度の水質調査では、過去の結果と比較して、玉穂地区の渋川下流、豊富地区の豊富2用水路、大門川を除き、大きな変化はありませんでした。渋川下流は水量が乏しく、流れが滞っているため濁りが目立つ状況でした。

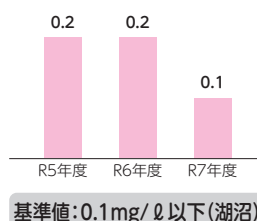
▼令和4年度から測定方法が変更された大腸菌数は、例年、環境基準を達成できていない箇所が散在していますが、この状況は今回の調査でも大きな変化はありませんでした。

※市内を流れる河川は、いずれ金無川・笛吹川といった富士川水系に流れ込むため、市内の河川の水質保全を行うことはそのまま富士川水系下流域の水質保全の一助にもなると考えられます。

全りん(T-P)

水中に存在するすべてのリン化合物の総量です。生活排水や工場排水、畜産排水などに含まれており、河川の富栄養化を図る指標として利用されています。

全26地点のうち、⑩玉穂公園北側水路と②渋川下流が高い数値を示しました。⑩玉穂公園北側水路は工業系の汚濁が疑われ、今後注視していく必要があります。



○ 中央市測定地点 MAP ○

私たち一人ひとりが
できること

私たちの住むまちの河川の環境負荷の低減に関する取り組みをして、自分たちの生活が環境を破壊しないよう心掛け、よりよいまちづくりを目指しましょう。一人ひとりの簡単な行動が、河川の環境を守るための大きな成果につながります。できることから少しずつ始めてみましょう。

行動例

- ・食べ残し・飲み残しをしない
- ・油や汚れを直接流さない
- ・ごみを排水溝に流さない
- ・洗剤を使いすぎない

下の表は測定地点ごとの調査結果です。近所にある河川はどうでしょうか。2～3ページの地図や調査項目と一緒に確認してみてください。

令和7年度 河川水質調査結果

調査地点	水素イオン濃度	生物化学的酸素要求量 (mg/ℓ)	浮遊物質濃度 (mg/ℓ)	溶存酸素量 (mg/ℓ)	大腸菌数 (CFU/100ml)	全窒素 (mg/ℓ)	全りん (mg/ℓ)
①常永川上流	7.6	0.5未満	2	9.2	440	1.1	0.095
②清川上流	7.5	0.5未満	1	9.6	3	1.0	0.03
③新川下流	7.9	0.5未満	3	12.0	160	1.3	0.1
④ペディ川下流	7.9	0.5未満	1	9.9	29	0.65	0.042
⑤リバーサイド外周路水路下流	測定不能	測定不能	測定不能	測定不能	測定不能	測定不能	測定不能
⑥臼井排水路上流	7.2	0.5未満	1未満	7.4	3	0.81	0.053
⑦宇坪川上流	7.3	0.5未満	1未満	9.1	18	0.68	0.035
⑧常永川下流	8.1	0.5未満	3	10.0	140	1.1	0.11
⑨古道川上流	7.9	0.5未満	1未満	9.7	2	1.3	0.033
⑩今福排水下流	8.0	0.5未満	1	11.0	15	0.8	0.086
⑪宇坪川下流	8.5	0.8	7	13.0	750	1.0	0.082
⑫古道川下流	7.8	0.8	1未満	8.7	910	1.3	0.22
⑬清川下流	8.0	0.5未満	1	10.0	610	0.94	0.067
⑭東花輪川上流	7.3	0.5未満	3	9.4	360	1.1	0.046
⑮東花輪川下流	8.7	0.7	4	13.0	290	0.85	0.094
⑯玉穂公園北側水路	8.2	1.2	6	10.0	70	0.87	0.33
⑰山王川上流	7.6	0.5	3	9.2	600	0.86	0.076
⑱新川下流	7.7	0.9	2	9.1	1000	1.2	0.21
⑲山王川中流	7.6	1.0	7	9.6	700	1.0	0.12
⑳山王川下流	7.9	0.7	7	10.0	810	1.0	0.14
㉑神明川下流	7.9	1.1	13	9.6	400	0.92	0.13
㉒渋川下流	8.6	2.8	23	10.0	5200	1.5	0.35
㉓豊富2用水路	7.4	2.5	1	8.4	6300	3.1	0.17
㉔豊富1用水路	7.5	0.5未満	1未満	9.0	24	3.1	0.14
㉕大門川	7.5	0.5	1未満	9.6	3900	0.74	0.043
㉖仲川	7.5	0.5未満	2	9.2	24	0.52	0.041
環境庁告示水質汚濁に係る環境基準	6.5～8.5 (河川類型 A)	2 以下 (河川類型 A)	25 以下 (河川類型 A)	7.5 以上 (河川類型 A)	300 以下 (河川類型 A)	1 以下 (湖沼)	0.1 以下 (湖沼)
	6.5～8.5 (河川類型 B)	3 以下 (河川類型 B)	25 以下 (河川類型 B)	5 以上 (河川類型 B)	1000 以下 (河川類型 B)		

※⑤リバーサイド外周路水路下流は、干上がっていたため測定することができませんでした。

※「全窒素」「全りん」については、河川における基準値は設定されていないので、湖沼の環境基準値を掲載しています。